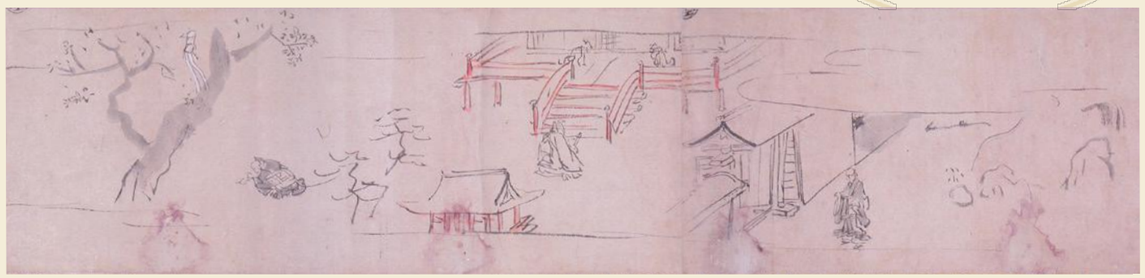
【第三章】お殿様ゆかりの巨匠たち

二人のお殿様と江戸時代の有名な二人の絵師との物語は、二つのお宮に由来するものです。

忠昭は府内藩主になるとすぐ、由原（柞原）八幡宮に神領を寄進しました。領内の寺社の保護を図ったものです。寛文２年（1662）にはお宮に伝わる縁起絵巻を江戸に持参し、幕府の御用絵師を務めた狩野探幽に鑑定を依頼しています。その際に探幽が描き写したスケッチが「探幽縮図由原八幡宮縁起絵巻」です。

一方、萩原から津守へと移り住んだ忠直は、近くの熊野神社や霊山寺などを再建しました。「熊野権現縁起絵巻」は忠直が熊野神社に寄進したもので、その画風や料紙の装飾などから忠直に仕えた岩佐又兵衛に制作を依頼した絵巻群の一つとみられます。



「探幽縮図由原八幡宮縁起絵巻」大分市歴史資料館所蔵

市指定有形文化財「熊野権現縁起絵巻」熊野神社（大分市）所蔵

【第四章】物語にみる大分市の特性

二人のお殿様の物語からは江戸時代の大分市が幕府の重要な地域として機能していたことが分かります。忠直の監視役として幕府が府内城下に置いたのが府内目付で、九州を管轄する幕府の役割も果たしていました。「正保城絵図」にはその屋敷の場所が記されています。

忠昭が府内藩主になり、明治維新を迎えるまで続く譜代大名の大給松平氏が統治する時代が始まりました。大給松平のお殿様は、九州の外様大名の監視や出島がある幕府直轄地の長崎で幕府の重要な役割を担っていたことが知られています。

これらは、瀬戸内海航路の九州の玄関口にあたる江戸時代の大分市を幕府が重要視した現われに他なりません。

「正保城絵図（複製）」大分市歴史資料館所蔵（原本：内閣文庫）

発行 大分市歴史資料館 〒870-0864 大分市大字国分960-1 TEL：097-549-0880 FAX:097-549-5766

【開館時間】入館は16:30まで 9:00-17:00 【休館日】※ただし祝日の場合は開館 月曜日（第1月曜を除く）、第1火曜日 ※ただし土日の場合は開館 祝日の翌日 【年末年始の休館日】12/28－1/4 【観覧料】※団体は20名以上 大人210円（団体150円） 高校生100円（団体50円） 中学生以下無料

※身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方とその介護者１名は無料。◎入館時に受付で手帳を提示してください。
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、予定を変更する場合がございます。

発行日：令和４年３月５日

大分市歴史資料館ニュース

OITA CITY HISTORICAL MUSEUM

vol. 128
2022.3.5

「探幽縮図由原八幡宮縁起絵図」（大分市歴史資料館所蔵）

大分市歴史資料館
令和４年春季テーマ展示

松平殿様物語

会期
令和４年３月５日(土)－５月８日(日)

大分市歴史資料館

松平殿様物語

大分市歴史資料館
令和4年春季テーマ展示

松平のお殿様は、江戸幕府を開いた徳川家康の一門で、江戸時代の大分市とも深く関わりがありました。越前（福井県）の福井藩主を務めた松平忠直と豊後（大分県）の府内藩主大給松平氏が残した歴史は、ふるさと大分市の大切な文化財として今も守り継がれています。

今回の展示では、松平忠直と松平忠昭という二人のお殿様の物語を中心に、江戸時代の大分市の歴史的特性を紐解きます。また、この二人と狩野探幽や岩佐又兵衛という二人の絵師とのゆかりなども併せてご紹介します。

【第一章】物語のはじまり

それは徳川家康の孫の松平忠直が、元和９年（1623）に幕府の命により福井から萩原（大分市）へ移り住んだことに始まります。「元和年中萩原村絵図」は、忠直の館の様子を描いた貴重な絵図です。

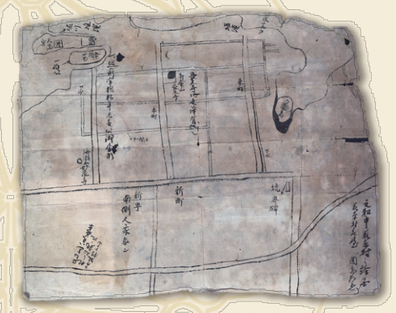
忠直は福井藩68万石の大大名で、大坂夏の陣(1615)年では豊臣方3,650人を討ち取り、大坂城に一番乗りを果たすなど大きな功績を残しました。

その後、江戸への参勤を怠り、福井の藩政を疎かにしたことなどが理由で、藩主の地位を追われました。務めを怠れば家康の孫であっても処分するという幕府の姿勢を天下に示し、大名統制の強化を目的に行ったものとみられます。

津守の熊野神社には、「一伯公」と今でも親しまれている忠直所用の兜蓑や鐙など数多くの品が伝えられています。

「松平忠直画像（複製）」原本：浄土寺（大分市）所蔵

「兜蓑」熊野神社（大分市）所蔵



「元和年中萩原村絵図」熊野神社（大分市）所蔵

「葵紋入梨子地卍蒔絵鐙」熊野神社（大分市）所蔵

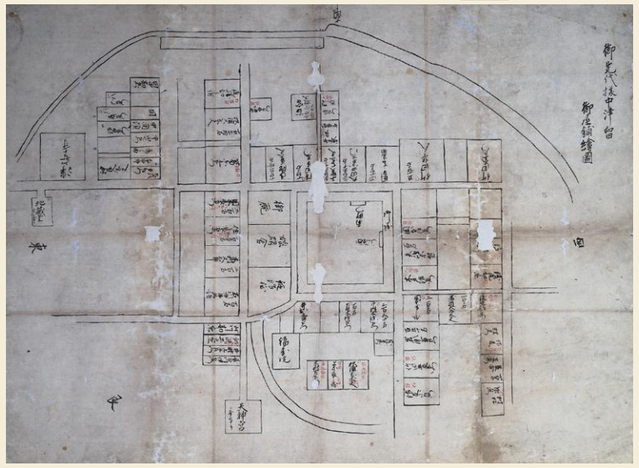
【第二章】大給松平のお殿様

寛永12年（1635）にはもう一人の松平のお殿様が中津留（大分市）に移り住んできました。そのお殿様は寛永10年（1633）に丹波亀山藩（京都府・兵庫県）の藩主を務めた譜代大名の松平忠昭で、この配置は北九州から大分市の海岸部一帯に九州の譜代大名全員を意図的に集めた幕府の政策によるものとみられます。

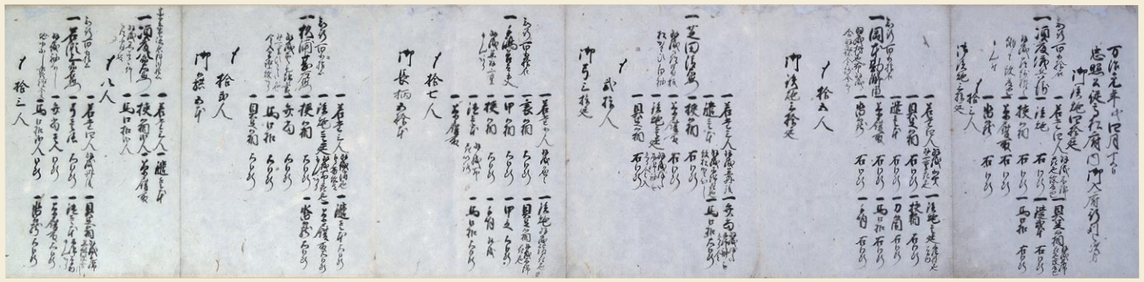
「松平忠昭中津留屋敷絵図」は、この頃の忠昭の屋敷の様子を描いたもので、家臣の屋敷に取り囲まれ、格子状に道路が整備されていました。

忠昭は万治元（1658）年に豊後府内藩主となります。府内城に入る当日の大名行列の記録が「忠昭公従高松府内江御入府行列次第(ただあきこうたかまつよりふないへごにゅうふぎょうれつしだい)」で、総勢991人の家来を従えて入城したことが分かります。

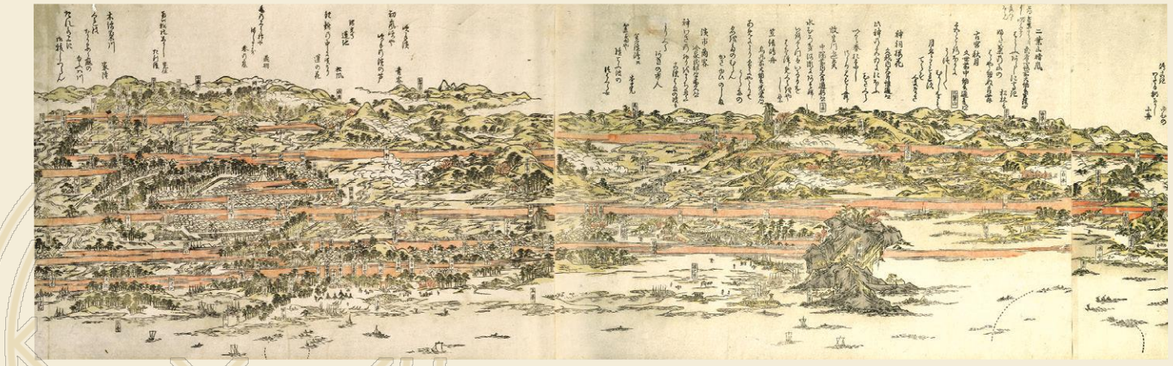
「松平忠昭肖像（写真パネル）」原本：浄安寺（大分市）所蔵



「松平忠昭中津留屋敷絵図」大分市歴史資料館所蔵



「忠昭公従高松府内江御入府行列次第」大分市歴史資料館所蔵



「杵築府内間山水図巻」大分市歴史資料館所蔵